

### 3.4 ナガエツルノゲイトウ【特定外来生物】



#### ★対策のポイント★

##### ▶根ごと除去

地上部だけを除去しても、栄養繁殖により残存した植物体（根を含む）から再生

##### ▶発見したらすぐ除去

増殖速度がとても速いため、発見次第すぐに除去

増殖すると除去に要する労力が増えてしまう

##### ▶拡散の防止が重要

植物断片からも再生する

ちぎれた断片を拡散させないためにオイルフェンス等を設置

植物断片を広げないために駆除に用いた器具についた土は水で洗浄し植物断片を残さない

##### ▶適正な処分が重要

外来生物法に基づいた処分が必要（1.6.5 を参照）

駆除後はアスファルト上等乾いた場所に置き完全に枯死させる

##### ▶継続的な駆除・定期的な確認が重要

除去し損ねた植物断片から再生する恐れがあるため1回の駆除ではなく根気強く継続的に実施

駆除後も再生の有無を定期的にモニタリング

##### ▶日本では種子をつけないので種子繁殖のおそれはない

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
生活史	越冬		開花							越冬		
	クローン生長											
駆除推奨時期					抜き取りや剥ぎ取り							

図 28 ナガエツルノゲイトウの生活史と駆除スケジュール（生育する地域や環境により異なることがある）

### 3.4.1 生態・見分け方

#### 【概要】

ナガエツルノゲイトウ (*Alternanthera philoxeroides*) は南アメリカ原産の多年生の抽水～湿生植物である<sup>1)</sup>。日本では特定外来生物に指定されている<sup>2)</sup>。

日本では1989年に兵庫県尼崎市で採集され、本州西部以西～沖縄に広がりだした<sup>3)</sup>。令和5年1月現在、西日本を中心に東京都、千葉県、神奈川県、山梨県、静岡県、福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、淡路島、鳥取県、島根県、山口県、徳島県、福岡県、佐賀県、熊本県、鹿児島県、沖縄県に分布している<sup>4)</sup>。

4～10月に白い花をつける。日本では種子繁殖の報告はないが、栄養繁殖が旺盛で植物体断片から容易に再生する<sup>2)</sup>。冬季は、地上部は枯死するが、根茎部で越冬する。また、耐乾性が高く、畑地等にも侵入する<sup>2)</sup>。

表 18 ナガエツルノゲイトウの主な生態情報

項目	情報
和名	ナガエツルノゲイトウ
学名	<i>Alternanthera philoxeroides</i>
英名	Alligatorweed
分類	維管束植物 双子葉・離弁花類 ヒユ科
基礎情報	湖沼や河川、水路、水田等に生育する多年生の抽水～湿生植物 <sup>1)</sup>
原産	南米 <sup>1)</sup>
見分け方	茎の中心は空洞（ストロー状） <sup>2)</sup> 節から1対の葉（対生） <sup>2)</sup> 葉の先はややとがる <sup>2)</sup> 白い花が咲き、花柄は葉の脇から長く伸びる <sup>2)</sup>
繁殖生態	4～10月に白い花をつける <sup>2)</sup> 日本では種子繁殖の報告はないが、栄養繁殖が旺盛で植物断片から容易に再生 <sup>2)</sup>
耐性	耐塩性、耐乾性が高い <sup>1) 5)</sup>

## ■ 見分け方

ナガエツルノゲイトウの同定については「ナガエツルノゲイトウ駆除マニュアル」<sup>2)</sup>、「特定外来生物同定マニュアル」<sup>6)</sup>を参考にされたい。間違えやすい主な植物はツルノゲイトウ、アメリカタカサブロウ、タカサブロウ、スベリヒユ、シロツメクサである。

見分け方のポイントは以下の通りである。

- ★ 茎の中心は空洞（ストロー状）（写真①）
- ★ 葉の先はややとがる（写真②）
- ★ 長い花柄（茎や花軸から枝分かれして花に至るまでの柄の部分）がある（写真③）



写真①



写真②



写真③

## ■ 分布情報

国立環境研究所 侵入生物データベースの侵入情報<sup>4)</sup>によると、ナガエツルノゲイトウの分布（令和5年1月時点）は以下のようになっている。

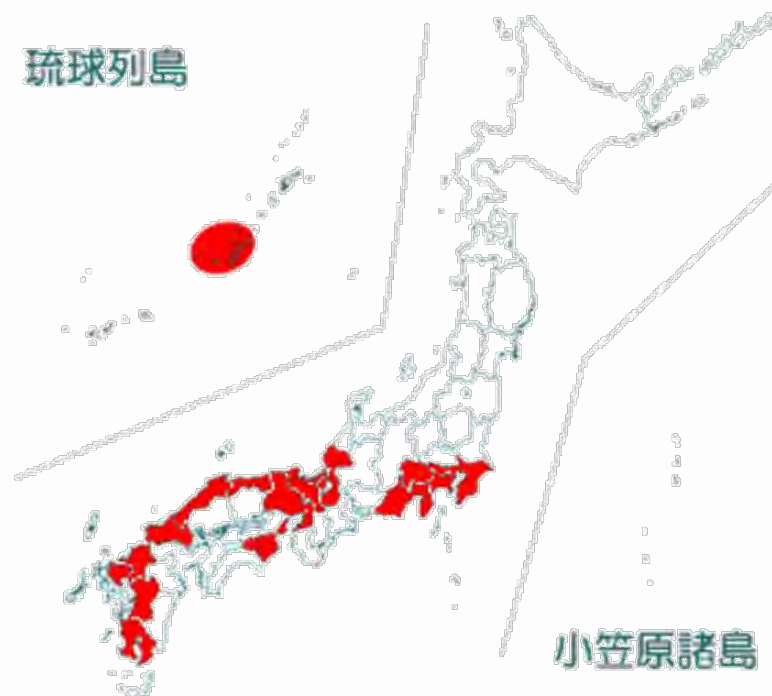


図 29 ナガエツルノゲイトウの侵入地域

（必ずしも色が塗られた地域全体に分布するわけではない）

国土交通省等が実施する「河川水辺の国勢調査」では、河川における生物調査の中で植物調査を行っており、「河川水辺の国勢調査結果の概要〔河川版〕（生物調査編）」の「3. 植物調査」<sup>7)</sup>で一級河川における一部の種の植物の生育状況を知ることができる。以下は平成 28 年度～令和 2 年度の植物調査でナガエツルノゲイトウが確認された一級河川の調査地区である。

なお、「河川水辺の国勢調査結果の概要〔河川版〕（生物調査編）」では、年度ごとの分布情報が公表されるため、最新の情報を確認されたい。

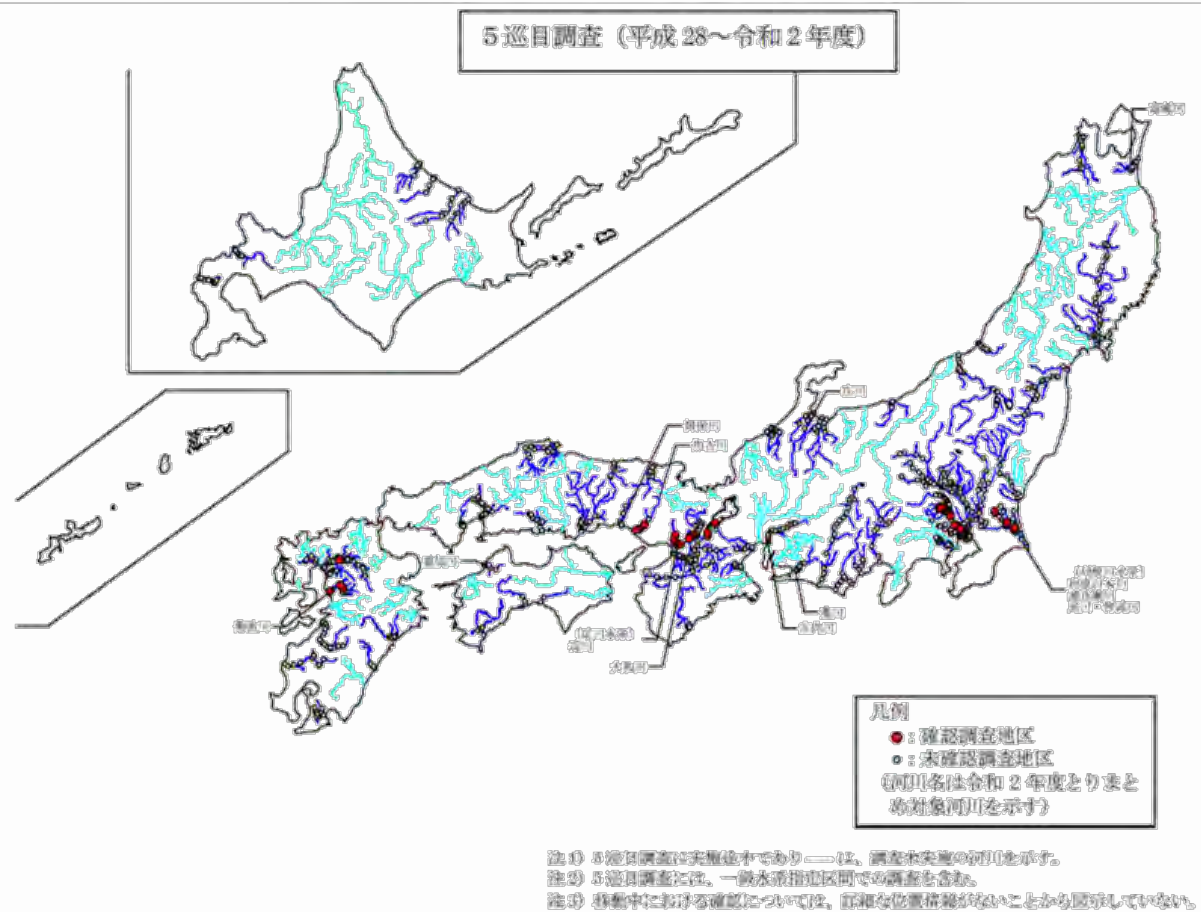


図 30 ナガエツルノゲイトウが確認された河川  
 （令和 2 年度 河川水辺の国勢調査結果の概要〔河川版〕（生物調査編）<sup>7)</sup>より引用）  
 (<http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/mizukokuweb/gaiyou.htm>)

また、河川水辺の国勢調査の結果を集約している「河川環境データベース」<sup>8)</sup>を令和5年1月に確認した結果、過去の調査から1回以上ナガエツルノゲイトウが確認された水系及びダムは以下の通りである。

表 19 ナガエツルノゲイトウが確認されている水系

地方	水系	地方	水系
関東地方	利根川	九州地方	緑川
	荒川		筑後川
近畿地方	淀川		松浦川
	加古川		菊池川
四国地方	吉野川		遠賀川
			白川

表 20 ナガエツルノゲイトウが確認されているダム

地方	水系	ダム名
近畿地方	淀川	天ヶ瀬
九州地方	筑後川	寺内